

科目名	法律入門Ⅱ	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Introduction to Law	開講年次	□1年□2年■3年□4年	
ふりがな	くにいのりお	開講期間	□前期■後期□通年 □集中	
担当者名	國井法夫	修得単位	2単位	
授業のテーマ	法律学を学ぶ前提としての「法と人間とのかかわりあい」について話す			
到達目標	経済学徒に「法的なものの考え方」とは何かを知ってもらう。			
授業概要	人々は日々の生活の中で意識するかしないかは別として法律の枠の中で生活をしている。この授業では経済を学ぶものを対象として我々の日常生活における法とのかかわり、法とともにいかに生きるべきかについて考えていく。			
授業計画				
第1回	法における人間 ①法の主体は ②「人」はいない ③「人」の平等性			
第2回	法における人間 ④身分から契約へ ⑤生まれつきの商人はいない			
第3回	法における人間 ⑥人は生まれることで平等 ⑦ナポレオンの誇り			
第4回	公法と私法 ①個人的問題 ②公法と私法の原理 ③法の保障機能との関係			
第5回	公法と私法 ④「家」をかえた新憲法 ⑤新民法における家族 ⑥国民相互の力の差はない			
第6回	近代私法の基本原則 ①近代市民法の基本的三原則 ②近代市民法における所有権			
第7回	近代私法の基本原則 ③法的責任について ④社会全体に対する責任と相手に対する責任			
第8回	近代私法の基本原則 ⑤刑事責任 ⑥民事責任 ⑦過失責任の原則の意義			
第9回	再び法における人間(人はみな平等か) ①ワイマール憲法 ②形式的平等が持つ弊害			
第10回	再び法における人間(人はみな平等か) ③貧乏物語 ④法の現代化 ⑤経済的権力の誕生			
第11回	再び法における人間(人はみな平等か)⑥人と法人 ⑦契約から再び身分へ ⑧社会法の登場			
第12回	日本人にとって法とは何か ①西欧近代化の日本に与えた影響 ②条約改正と法典編纂			
第13回	日本人にとって法とは何か③近代法制定の動き④日本文化の特色⑤法の現代化のパラドクス			
第14回	日本人にとって法とは何か ⑥日本人の法意識 ⑦日本的な紛争解決方法 ⑧夫婦財産契約			
第15回	日本人にとって法とは何か ⑨西洋人の法意識 ⑩国民・国家の法律好き			
第16回	定期試験			
授業時間の学習		復習		
履修条件・受講のルール		欠席しない。		
テキスト		プリント		
参考文献・資料				
成績評価の方法		試験の得点（60％）・レポート提出（10％）・出欠・学習態度（30％）等で総合評価 出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		
オフィスアワー		金曜日 5 時間目		
成績評価基準		平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)試験の得点（60％）・レポート提出（10％）・出欠・学習態度		

	(30%) 等で総合評価します。
学生へのメッセージ	欠席せずに努力する人を歓迎します。